



防災訓練(火災避難訓練)の実施報告について

管理課

平成30年度の医学部地区防災訓練(火災避難訓練)を、高松市三木消防署のご協力のもと、11月13日(火)に実施しました。例年1日で行っていたものを昨年度から2日に分けて実施し、訓練内容の充実を図っています。

10月に実施した訓練は、南海トラフ大地震が発生し、震度5弱を観測したとの想定で、「学生の避難訓練」、「災害拠点病院として大規模災害における防災訓練(災害対策本部設置訓練、多数傷病者受入れ訓練)」を行いました。

今回は、「病院火災を想定した避難誘導訓練」として、南病棟1階救命救急センター内での出火を想定し、初期消火訓練、消防署への通報訓練、避難誘導訓練、避難状況確認伝達訓練を実施しました。その後、屋外にて「消火器操作訓練及び煙体験」を実施しました。

当日は、教職員約230名が参加し、有意義な訓練を行うことができました。今後も訓練結果を踏まえ、どんな時でも対応できるよう「防災力の強化」に努めたいと思います。



病棟火災避難誘導訓練



病棟火災避難誘導訓練



消火器操作訓練



煙体験

香川大学医学部 小児外科学 准教授 下野 隆一

こどもがよく訴えるおなかの痛み。小さいお子さんのいるご家庭ではどんな腹痛が危険か、ご存じでしょうか。特に小さいお子さんは訴える症状も様々でお腹の中で何が起きているのか、わかりにくいことがあります。新生児・乳児期から小学校くらいまでのお子さんに起こりやすい小児外科の腹痛を伴う病気について考えてみましょう。

よく起こるおなかの痛みは腸の動きや排便に伴って起こるものでしばらくすると治まってしまうこともあるか、と思います。また、感染性腸炎に伴って起こるおなかの痛みもよく見かけます。このような場合は下痢や風邪症状を伴っていることもあります。単におなかの痛みだけのこともあります。でも重要なおなかの痛みは、座ることも寝ることもできないくらいの強い痛みや妙におとなしく、うずくまっているような様子、数時間以上持続する、また、嘔吐や下血、発熱などを伴う場合には要注意です。乳幼児期であれば腸重積症や腸捻転、年長児では虫垂炎や精巣捻転などが考えられ、場合によっては手術が必要な場合があるからです。このような場合はかかりつけの小児科、夜間・休日なら夜間急病センターや休日当番医に早めに相談することが重要です。

重要なこどものおなかの痛み

1. こどもの腹痛は訴えに乏しく急変しやすい
2. 腹痛以外に発熱、嘔吐、下血などがなければチェックする
3. 普段と異なるお子さんの様子、特におとなしい様子に注意を払う
4. 怪しいと思ったら早めの対応

お腹の痛みの原因

1. 臓器の拡張や蠕動(腸の動き、排便関連)
2. 臓器の虚血(腸捻転、腸重積)
3. 腸炎(感染性腸炎)
4. 腹膜炎(虫垂炎など)
5. その他(鼠径ヘルニア嵌頓、精巣捻転)

※第34回イキイキサぬき健康塾(平成30年3月11日開催)の講演内容を要約したものです。

卵巣がんの診療と最近の話題

香川大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター 准教授 金西 賢治

我が国の卵巣癌患者数は増加傾向にあり、その罹患率は子宮頸癌、体癌より低いですが死亡率はこれを上回っています。早期発見が難しく、約7割はⅢ期以上の進行癌として診断されることが予後不良の要因と考えられます。病因には様々な因子が考えられていますが、環境因子以外にも子宮内膜症の合併や、遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)などの遺伝的な要因も注目されています。診断は主に超音波検査やCT検査による画像診断とCA-125と呼ばれる腫瘍マーカーなどを用いて行います。治療の基本は手術療法と抗がん剤による化学療法です。病巣である卵巣を含め子宮、後腹膜リンパ節と腹腔内に広がった播種病変をできるだけ切除することが重要と考えられており、残存した腫瘍の大きさと予後には相関関係があることから腫瘍の減量が予後改善の最も重要な要因となります。手術後は多くの場合、術後補助化学療法を行います。しかしながら、診断時すでに腹水、胸水が貯まるなど進行例も多く、全身状態が悪い場合など、手術に先行し化学療法を行い、腫瘍を縮小させた後、全身状態が改善してから先に述べた様な手術を行う場合もあります。手術を先行した場合と化学療法を先行させた場合ではどちらがより治療効果が高いかについて現段階では結論が出ていませんが、化学療法を先行するケースでは、手術による合併症が低いことは多くの論文で報告されています。何れにしても手術と化学療法を併用し、画像診断などで病巣が認められない状況になるまで治療を継続します。また、卵巣癌は再発率が高い疾患で、約半数が再発すると考えられています。Ⅲ、Ⅳ期の進行例の約50%が2年以内、約70%が5年以内に再発すると言われており、初回治療から再発までの期間が、治療法の選択に重要です。最近ではアバスチンやリムパーザとよばれる分子標的薬も登場し、治療の選択肢は広がっており、予後改善に期待されています。

※第35回イキイキサぬき健康塾(平成30年4月8日開催)の講演内容を要約したものです。

四国新聞社の記事転載について、ホームページでの公開には
許諾されていないため、転載記事を除きました。

四国新聞 2018年(平成30年)5月11日(金)掲載 (四国新聞に掲載について許諾済み)

イキイキサメキ健康塾

香川大学医学部附属病院 医療セミナー

高松市内で定期的に行っている医療セミナー「イキイキサメキ健康塾」がケーブルメディア四国のコミュニティチャンネルで放送中です。実際にセミナーにご参加いただいた方の振り返りに、セミナー当日に参加できなかった方に、医療セミナーに興味のある方に、皆様ぜひご覧ください。

また、今までに開催された医療セミナー「イキイキサメキ健康塾」をYou Tubeでご覧いただけます。

香川大学医学部附属病院You Tubeチャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCtdoZ-wYQFrB8R1zcxE85aQ>



香川大学医学部附属病院
You Tubeチャンネル

放射線治療は「がんを切らずに治す」ことができます。今回は、身体の形態や機能を温存できる特徴をより良く活かせる領域を取り上げます。頭頸部とは副鼻腔、咽頭・喉頭などの耳鼻科領域を指しますが、周囲に視覚や聴覚、発声、嚥下など多様な機能を司る器官が近くにあるので、治療によって機能喪失や顔貌の変化を生じれば著しい生活の質の低下に繋がります。前立腺は男性機能や排尿に関係する臓器であり、全摘術では勃起障害や尿失禁が起こり得ます。

放射線治療は優れた根治性を期待できる一方、正常組織の線量が高いと有害反応が懸念されます。つまり、治療が威力を発揮するには、腫瘍への正確な高線量照射に加えて、正常組織への線量を如何に最小限に留めるかが大切です。これを実現するのが「強度変調放射線治療(IMRT)」です。高性能な治療装置とコンピュータ技術を駆使して多方向あるいは回転を加えながらビーム強度を自在に変えることで、腫瘍形状に合わせた線量集中と正常組織を避けた照射が可能で、当院のIMRTは有効性と安全性について定評を得て、導入以後累計250例を超える実績を重ねています。

頭頸部癌のIMRTでは特に高い技術が要求されますが、上手く用いれば脳脊髄や視聴覚などの確実な防護は元より、唾液分泌、味覚、嚥下などのきめ細かな機能温存も可能であり、治療前と遜色ない日常生活を送れます。

前立腺癌のIMRTでは排便や排尿などのリスク軽減と同時に、病巣への線量増加によって治療成績の向上が得られます。また、前立腺は膀胱内の尿量や直腸ガスの変化によって動くため、当院では高精度な画像誘導技術(IGRT)を用いて標的を正確に捉えた再現性の高い治療品質を保証します。その他、低リスクの症例に対しては別途「小線源治療」も選択できます。これは放射性ヨードを含む線源を前立腺内に直接挿入する方法であり、1～2泊の短期入院で完了し、根治性が高くかつ男性機能の温存にも優れています。当院は香川県内でこの小線源治療を実施可能な唯一の施設です。高精度治療を望まれる皆様のご要望に応じて、地域医療機関とのホットラインを設置しています。何なりとご相談をお寄せ下さい。

毎日新聞「四国健康ナビ」H30.3.13掲載

臨床研究に関するご案内

医学部倫理委員会委員長
治験審査委員会委員長
臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記 URL に示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに對して同意が得られたものとさせていただきます。

臨床研究に関するご案内URL <http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/rinsyo/>

イベントカレンダー H30.12～H31.1月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
12/6 木	14:00～15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と医師が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066
12/16 日	11:00～12:00	丸亀町レッツホール	イキイキさぬき健康塾-香川大学病院と最新医療- 「知って得する認知症のこと」	総務課	(087)891-2008
12/20 木	14:00～15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と歯科衛生士が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066
H31/1/10 木	14:00～15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と医師が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066
1/13 日	11:00～12:00	丸亀町レッツホール	イキイキさぬき健康塾-香川大学病院と最新医療- 「前立腺がんを正しく理解して正しく治療しよう!やりすぎは絶対にダメ!」	総務課	(087)891-2008
1/17 木	14:00～16:00	西1階カンファレンスルーム	がん患者サロン 「ヘア・メイクに関する話」	がん相談支援センター	(087)891-2473
1/24 木	14:00～15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と理学療法士が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066

編集委員会 (50音順)

荒井(検査)、大高(医療支援)、加賀宇(総務)、岸野(病棟)、日下(副病院長)、笹川(放射線)、田川(管理)、田中(看護)、富田(経営)、濱本(外来)、芳地(薬剤)、横井(情報)、吉野(医事) [委員長 横見瀬病院長]